

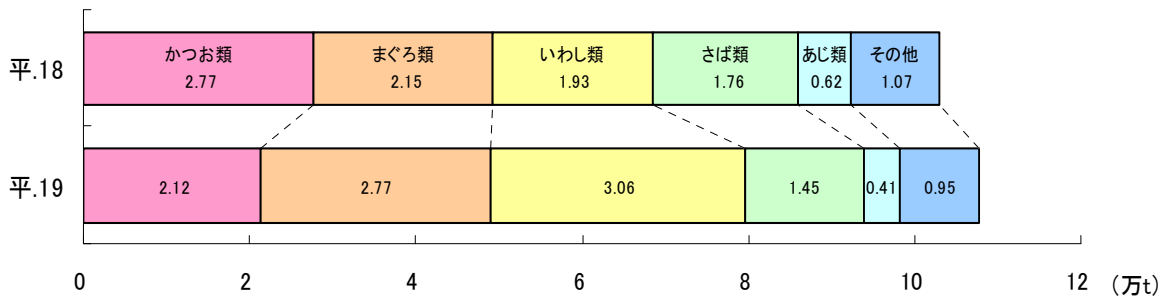
平成19年 宮崎県の海面漁業・養殖業生産量（概数）

— 海面漁業漁獲量は、まぐろ類、いわし類の増加により前年に比べ4.5%増加 —

【調査結果の概要】

- 平成19年(1月～12月)の宮崎県における海面漁業・養殖業の生産量は11万8,405 tで、前年に比べ4,464 t (3.9%)増加しました。
- 海面漁業の漁獲量は10万7,639 tで、前年に比べ4,619 t (4.5%)増加しました。
これは、かつお類、さば類、あじ類は減少したものの、まぐろ類、いわし類が増加したためです。
- 海面養殖業の収穫量は1万767 tで、前年に比べ154 t (1.4%)減少しました。
これは、まだいが減少したためです。

図1 主な海面漁業魚種別漁獲量



海面漁業・養殖業生産量

単位：t

区分	平. 19	18	対前年差	対前年増減率
海面漁業・養殖業生産量計	118 405	113 941	4 464	3.9 %
海面漁業	107 639	103 020	4 619	4.5 %
海面養殖業	10 767	10 921	△ 154	△ 1.4 %

（この統計調査結果で使用している統計表は、以下のアドレスからデータとしてご利用いただけます。
【 <http://www.maff.go.jp/kyusyu/miyazaki/index.html> 】）

【解 説】

1 海面漁業漁獲量

(1) 主な漁業種類別漁獲量

ア 中・小型まき網

中・小型まき網の漁獲量は3万6,972 tで、前年に比べ2,903 t (8.5%) 増加しました。

これは、かつお類、あじ類、さば類は減少したものの、まいわし、かたくちいわしが増加したためです。

イ 近海かつお一本釣り

近海かつお一本釣りの漁獲量は2万6,825 tで、前年に比べ547 t (2.0%) 減少しました。

これは、びんなが、きはだは増加したものの、かつおが減少したためです。

ウ 近海まぐろはえ縄

近海まぐろはえ縄の漁獲量は1万240 tで、前年に比べ1,716 t (20.1%) 増加しました。

エ 遠洋まぐろはえ縄

遠洋まぐろはえ縄の漁獲量は3,046 tで、前年に比べ、1,670 t (35.4%) 減少しました。

これは、びんなが、めばち、きはだが大幅に減少したためです。

オ 遠洋かつお一本釣り

遠洋かつお一本釣りの漁獲量は4,914 tで、前年に比べ、604 t (14.0%) 増加しました。

これは、かつおは減少したものの、びんなが、きはだが増加したためです。

図2-1 主な漁業種類別漁獲量の推移

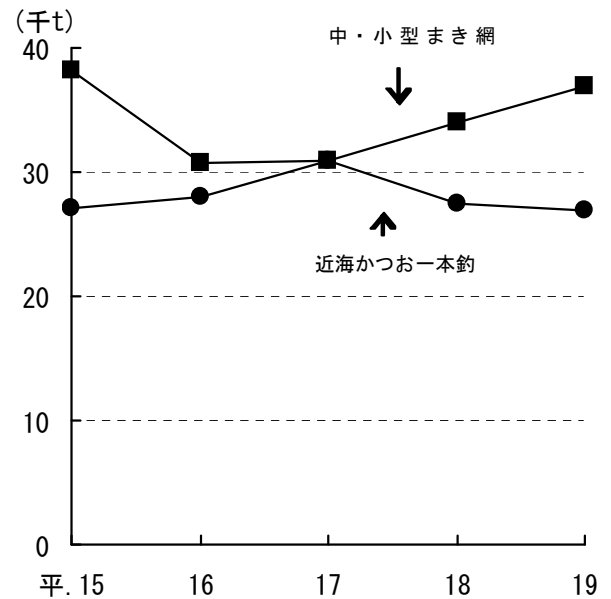
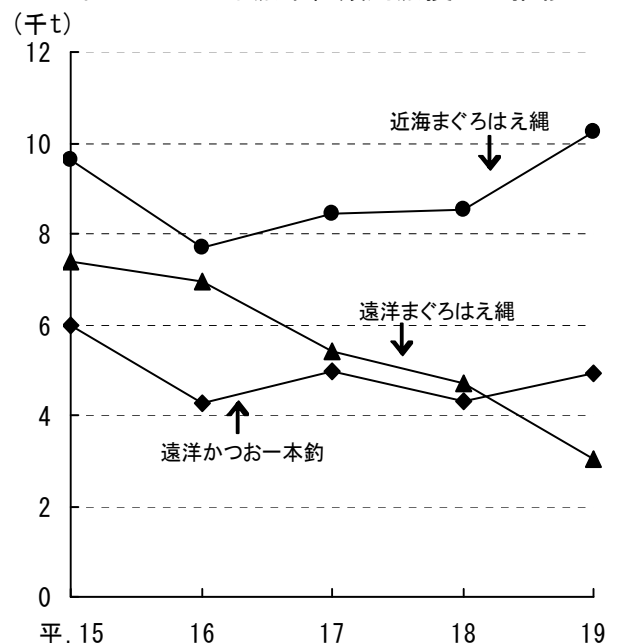


図2-2 主な漁業種類別漁獲量の推移



(2) 主な魚種別漁獲量

ア いわし類

いわし類の漁獲量は3万567 tで、前年に比べ1万1,312 t (58.7%)増加しました。

これは、中・小型まき網でまいわし、かたくちいわしが大幅に増加したためです。

イ まぐろ類

まぐろ類の漁獲量は2万7,737 tで、前年に比べ6,230 t (29.0%)増加しました。

これは、遠洋まぐろはえ縄でびんなが、めばち、きはだは減少したものの、近海まぐろはえ縄、遠洋かつお一本釣及び近海かつお一本釣でびんなが、きはだが増加したためです。

ウ かつお類

かつお類の漁獲量は2万1,221 tで、前年に比べ6,522 t (23.5%)減少しました。これは、中・小型まき網、近海かつお一本釣で漁獲量が減少したためです。

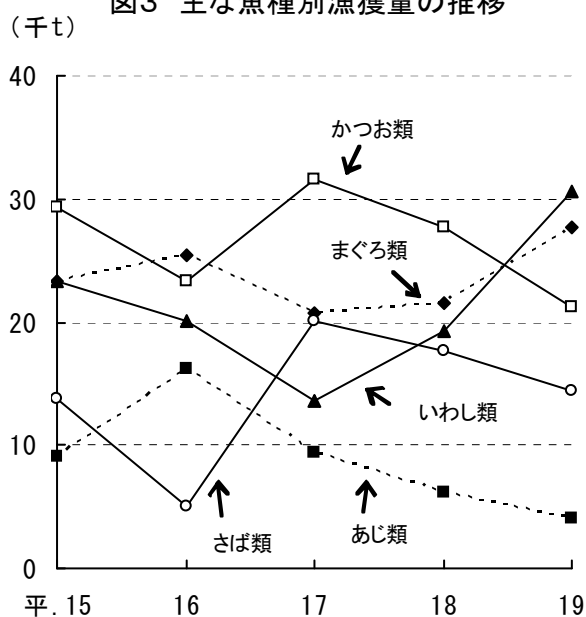
エ さば類

さば類の漁獲量は1万4,487 tで、前年に比べ3,084 t (17.6%)減少しました。これは、中・小型まき網で漁獲量が減少したためです。

オ あじ類

あじ類の漁獲量は4,115 tで、前年に比べ2,110 t (33.9%)減少しました。これは、中・小型まき網で漁獲量が減少したためです。

図3 主な魚種別漁獲量の推移



2 海面養殖業収獲量

海面養殖業の収獲量は1万767 tで、前年に比べ154 t (1.4%)減少しました。これは、まだい養殖が減少したためです。

(1) ぶり類養殖

ぶり類養殖の収獲量は9,522 tで、前年に比べ29 t (0.3%)減少しました。これは、ぶりは増加したものの、かんぱちが減少したためです。

(2) まだい養殖

まだい養殖の収獲量は476 tで、前年に比べ295 t (38.3%)減少しました。これは、価格の低迷等のため収獲量が減少したためです。

【統計表】

1 海面漁業・養殖業別生産量

単位：t

区 分	平. 19	18	対前年差	対前年比
合 計	118 405	113 941	4 464	103.9
海 面 漁 業 計	107 639	103 020	4 619	104.5
1) 小 型 底 び き 網	1 148	1 191	△ 43	96.4
2) 船 び き 網	3 642	2 645	997	137.7
大 中 型 1 そ う ま き 網 そ の 他	x	x	x	x
3) 中 ・ 小 型 ま き 網	36 972	34 069	2 903	108.5
そ の 他 の 刺 網	617	687	△ 70	89.8
大 型 定 置 網	1 960	2 245	△ 285	87.3
小 型 定 置 網	1 630	1 444	186	112.9
4) そ の 他 の 網 漁 業	x	x	x	x
遠 洋 ま ぐ ろ は え 縄	3 046	4 716	△ 1 670	64.6
近 海 ま ぐ ろ は え 縄	10 240	8 524	1 716	120.1
沿 岸 ま ぐ ろ は え 縄	2 461	1 934	527	127.2
そ の 他 の は え 縄	921	947	△ 26	97.3
遠 洋 か つ お 一 本 釣	4 914	4 310	604	114.0
近 海 か つ お 一 本 釣	26 825	27 372	△ 547	98.0
沿 岸 か つ お 一 本 釣	545	452	93	120.6
沿 岸 い か 釣	25	55	△ 30	45.5
ひ き 縄 釣	1 590	1 711	△ 121	92.9
そ の 他 の 釣	263	300	△ 37	87.7
5) 採 貝 ・ 採 藻	120	84	36	142.9
そ の 他 の 漁 業	x	175	x	x
海 面 養 殖 業 計	10 767	10 921	△ 154	98.6
う ち ぶ り 類 養 殖	9 522	9 551	△ 29	99.7
う ち ま だ い 養 殖	476	771	△ 295	61.7

注：平成18年値は、平成19年調査の項目に合わせ組替集計を以下のとおり行った値です。

- 1)「小型底びき網」は、「縦びき1種」、「縦びきその他」、「横びき」を新たに加えました。
- 2)「船びき網」は、「ひき回し網」、「ひき寄せ網」を新たに加えました。
- 3)「中・小型まき網」は、「中・小型1そうまき巾着網」、「中・小型2そうまき巾着網」、「その他の中・小型まき網」を新たに加えました。
- 4)「その他の網漁業」は、「地びき網」、「その他の敷網」を新たに加えました。
- 5)「採貝・採藻」は、「採貝」、「採藻」を統合しました。

2 海面漁業魚種別漁獲量

単位：t

区 分	平. 19	18	対前年差	対前年比
合 計	107 639	103 020	4 619	104.5
魚 類 計	106 922	102 135	4 787	104.7
ま ぐ ろ 類	27 737	21 507	6 230	129.0
か じ き 類	885	969	△ 84	91.3
か つ お 類	21 221	27 743	△ 6 522	76.5
さ め 類	91	84	7	108.3
い わ し 類	30 567	19 255	11 312	158.7
う ち し ら す	3 607	2 640	967	136.6
あ じ 類	4 115	6 225	△ 2 110	66.1
さ ば 類	14 487	17 571	△ 3 084	82.4
ぶ り 類	234	417	△ 183	56.1
ひ ら め	39	41	△ 2	95.1
か れ い 類	50	53	△ 3	94.3
た ち う お	733	349	384	210.0
た い 類	282	331	△ 49	85.2
さ わ ら 類	325	578	△ 253	56.2
1) そ の 他 の 魚 類	6 156	7 011	△ 855	87.8
え び 類	223	226	△ 3	98.7
か に 類	24	29	△ 5	82.8
貝 類	118	66	52	178.8
い か 類	251	341	△ 90	73.6
た こ 類	24	91	△ 67	26.4
う に 類	57	93	△ 36	61.3
海 産 ほ 乳 類	3	16	△ 13	18.8
2) そ の 他 の 水 産 動 物 類	1	1	-	100.0
3) そ の 他 の 海 藻 類	15	23	△ 8	65.2

注：平成18年値は、平成19年調査の項目に合わせ組替集計を以下のとおり行った値です。

- 1)「その他の魚類」は、「めめけ類」、「にべ・ぐち類」、「えそ類」、「いぼだい」、「はも」、「えい類」、「しいら類」、「とびうお類」、「ぼら類」を新たに加えました。
- 2)「その他の水産動物類」は、「なまこ類」を新たに加えました。
- 3)「その他の海藻類」は、「ひじき」、「わかめ類」、「てんぐさ類」を新たに加えました。

【調査の仕様】

1 調査の目的

海面漁業生産統計調査は、我が国の海面漁業、海面養殖業の生産に関する実態を明らかにし、水産行政の資料を整備することを目的としています。

2 調査の対象

海面漁業生産統計調査のうち、海面漁業漁獲統計調査及び海面養殖業収獲統計調査は、原則、水揚機関を対象とし、水揚機関で把握できない場合に限り、海面漁業経営体を対象としました。

3 調査期間

調査期間は、平成19年1月1日～12月31日の1年間です。

なお、遠洋漁業等で年を越えて操業する場合は、陸揚等のために港に入港した日の属する年に含めて調査を行いました。

4 調査方法

平成19年調査から、原則、職員調査を廃止し、調査員調査で実施しました。

なお、往復郵送調査については、職員が実施しました。

海面漁業漁獲統計調査及び海面養殖業収獲統計調査

(1) 水揚機関

統計調査員が調査客体に水揚機関用調査票等を配付し自計申告する方法、電子計算機又は紙に出力された記録を閲覧する方法、又は面接聞き取りの方法により実施しました。

(2) 一括調査

統計調査員が調査客体に一括調査用調査票等を配付し自計申告する方法、又は面接聞き取りの方法により実施しました。

(3) 漁業経営体

往復郵送調査により実施しました。

5 海面漁業漁獲統計調査における漁業種類及び魚種の見直し

平成19年（今回調査）から、以下のとおり調査分類の見直しを行いました。

(1) 漁業種類を44分類から34分類に統合しました。

(2) 魚種を85分類から68分類に統合しました。

6 統計表の見方

(1) 統計表上の数値は、表示単位未満の端数を四捨五入したため、計と内訳が一致しない場合があります。

(2) 表中に用いた記号は、次のとおりです。

「X」は、秘密保護上（統計法第14条）数値を公表しないもの。また、計からの差引きにより「X」表示の内容が推定できる場合、関連する数値も公表しないものとして扱うものです。

「△」は、負数又は減少したものです。

7 その他

この発表結果は概数であり、確定値は平成21年刊行予定の「第55次宮崎農林水産統計年報」に掲載します。

問い合わせ先

◎本統計調査結果について

連絡先：九州農政局宮崎農政事務所統計部
生産流通消費統計課 統計管理官

TEL：(直通) 0985 (24) 2373

FAX： 0985 (29) 8442

◎農林水産統計全般について

連絡先：九州農政局宮崎農政事務所統計部
統計企画課 企画・分析係

TEL：(直通) 0985 (24) 2365

FAX： 0985 (29) 8442